

9	尾北	江南市立門弟山小学校	ウシマル タクヤ 氏名 牛丸 卓哉
分科会番号	6	分科会名	生活科教育

研究題目

主体的に学ぶ児童の育成を目指して
～生活科「生きものなかよし大作せん」～

1 主題設定の理由

本学級（2年生）には、男子12名・女子19名・計31名が在籍している。どの学習でも前向きに取り組んでいる。しかし、少し難しい課題に直面すると、「分からない」と手を止め、すぐに答えを周りから教えてもらおうとする児童も見られる。1学期当初は、課題に向けて自ら解決しようとする力が身に付いていないと感じられた。一人一人の知りたいことや理解度に合わせて課題の解決ができる手段として、インターネットの情報活用がある。しかし、2年生の発達段階では、タイピングがうまくできず、学習者用端末で写真を撮るだけで精一杯である。自ら必要な情報を検索したり、情報が正しいかを判断したりする力は、これからの時代に必要不可欠である。本実践で、その基礎を学び、課題を自ら進んで解決することに繋げたい。

そこで、生活科単元「生きものなかよし大作せん」で生き物の世話を通して、最後まで自分の課題に取り組むことで、主体的に学ぶ児童の育成を目指したい。

2 研究の仮説

- （1） 生き物の世話をすることで、一人一人が責任をもって最後まで取り組むだろう。
- （2） インターネット情報を活用することで、自ら進んで課題解決することができるようになるだろう。

3 研究の手立て

- （1） 生き物の世話をする。

校内にいる生き物を探し、1か月間世話をする。

- （2） よりよい世話の方法を見つけるために ICT 機器を活用する。

今までの世話の仕方を振り返り、さらによりよい方法を ICT 機器で調べることにより、課題解決に向けての主体的な姿勢をもつことができると考える。

4 検証の方法

- （1） 日常の世話の様子と授業中のグループ活動での児童の様子を観察する。
- （2） ワークシートの記述を分析する。
- （3） 事前事後のアンケートを分析する。

5 研究の実践 2年生生活科（10 時間完了）

（1） 生き物の世話をする

① 事前アンケート

本単元の学習を始める前に、生き物に対する関心についてのアンケートを行った。家庭でも生き物を飼っている児童も多く、半数以上の児童は生き物が好きという結果が出たが、生き物が苦手な児童も一定数いた。このことから、生き物に対して全体的に関心が高いことが分かる。しかし、生き物が好きな児童だけが世話を積極的に行い、苦手な児童が何もしないという懸念が生じる結果となった。

② 生き物調べ

アンケート結果を踏まえて、校内にどんな生き物がいるのか調べることにした。児童が推測した生き物が生息している場所で調査を行った。草むらや石の下などの意見が出た。本校の敷地内は多くの樹木があり自然豊かである。草むらや石の下などでダンゴムシ、トカゲ、バッタ、ヤゴ、チョウなど多くの生き物を見つけることができた。児童も「早くお世話したい」「トカゲがいいな」など生き物に対しての関心や世話に向けての意欲が高まった。

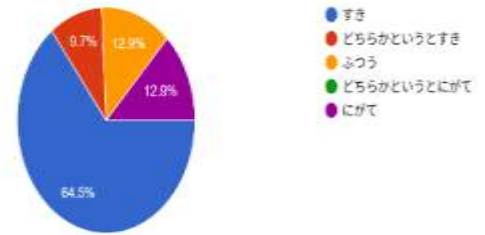
③ 自分が世話をしたい生き物選び

生き物調べを終えて、何の生き物の世話をしたいか全体でアンケートを取り、その結果、ダンゴムシとトカゲの世話をすることとした。希望する生き物ごとで、5, 6 人のグループ編成を行った。



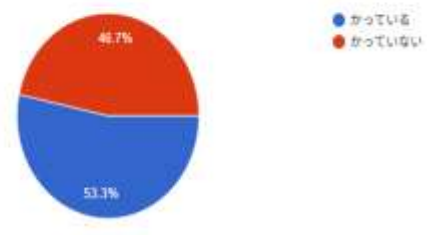
【生き物調べの様子①】

あなたは生きものが好きですか？
31 件の回答



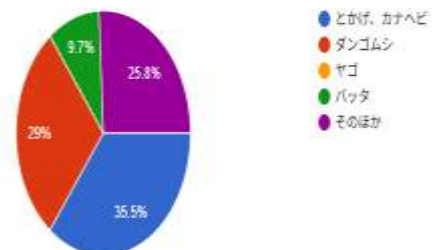
【生き物への関心アンケート①】

あなたは家で生きものをかっていますか？
30 件の回答



【生き物への関心アンケート②】

学校でお世話したい生きものはありますか？
31 件の回答



【お世話したい生き物アンケート】



【生き物調べの様子②】

④ グループ活動

生き物が生きていく中で大切なものについて話し合った。「えさはいるよね」、「飼育ケースのままだとかわいそう」など意見が出る中で「食べ物」と「家づくり」に決まった。グループの中で「家づくり」担当と「えさ探し」担当に役割分担をして活動することになった。

ア 「家づくり」

家づくりでは、ダンゴムシとトカゲが普段どんな場所で生活しているのかグループで話し合いを行った。「暗いところにいるんじゃない?」「石の下でよく見かけるよ」など家づくりのヒントを元に家づくりを始めた。活動中でも「飼育ケースの中に砂や土を敷いたらいいんじゃない?」「石を入れて隠れる場所を作ろう」「水がないと死んじゃうから、ペットボトルのふたを水飲み場にしよう」など積極的に意見が出た。



【担当分けの様子】

イ 「生き物のお世話」

生き物の世話が始まり、毎日生き物の様子を観察する児童が増えた。飼育ケースの掃除やえさ探しなど、役割分担した自分の仕事に責任をもって取り組んでいる姿もみられるようになってきた。また、自分の仕事だけではなく他の仕事を手伝う児童も少しずつ多くなっていた。4時間目は、これまでの世話の振り返りを行い、さらによい世話をするにはどうしたらよいのかを図書館にある本で調べることにした。教科書には載っていない新しい情報を元に、暗い場所を作るために飼育ケースに黒い画用紙を貼ったり、えさが大きすぎて食べられないのではないかと考え、えさを小さくして食べやすいようにしたりして、実践するグループがあった。また、グループの中だけではなく他のグループへアドバイスをするようになっていった。そして「もっと世話をしたい」という声も増えてきたため、次時は ICT 機器を使った調べ学習を行うことにした。



【家づくりの様子】



【えさやりの工夫】



【飼育ケースに画用紙を貼る】



【生き物の世話の様子】

(2) ICT 機器を活用してよりよい世話について調べる

生き物の世話にも慣れてきたところで、さらによりよい世話をするためにどうしたらいいのか児童に考えさせた。これまで教科書や図書館の本を参考にしてきたが、さらに詳しく調べる必要があると感じる児童が多くいた。「インターネットを使って調べたい」という児童の発言に賛成する声も多く、今までよりも ICT 機器への関心が高まっていると感じた。しかし、いきなり検索して調べることは難しい。そこで、まずは ICT 機器を活用して必要な情報を手に入れる練習を行うことにした。

① ICT 機器の練習

学習者用端末を使った検索方法に慣れるため、練習として「ご当地キャラクター調べ」を行った。自分で検索してホームページを探し出すのは難しいため、あらかじめご当地キャラクターが一覧できるホームページのリンクを学習者用端末アプリ classroom に添付した。その中から課題のご当地キャラクターの秘密を見つけ出す活動を行った。グループで協力できるように「調べる担当」と「プリントに記入する担当」に分けた。ICT 機器の操作では基本的な使い方と未習学漢字を読むためにふりがなのつけ方を一緒に確認した。自分が調べたいという気持ちが優先してしまい、プリントに記入する児童にうまく伝わらない場面もあったが、早く調べ終わったグループからどのように進めたのか全体にも共有することで全てのグループが活動をやりきることができた。



【ICT 機器の練習の様子】

② よりよい世話について調べる

実際に ICT 機器で調べる前に今までの世話について振り返りを行った。よりよい世話について調べるだけではなく、今まで行ってきた世話でこれからも続けたい世話も調べるようにした。学習では、練習と同じように「調べる担当」と「プリントに記入する担当」に役割分担をした。また、グループの中でも声を掛け合い「自分はえさについて調べるからそっちはすみかについて調べて」など児童たちは主体的に活動に取り組むことができた。調べることが得意な児童は苦手な児童に検索の仕方などを手助けするなど、協力し合う場面もあった。調べていく中で「ダンゴムシって豆腐も食べるんだ」「トカゲは暗いだけじゃなくてライトで明るくするんだ」など新しい発見に喜ぶ姿もみられた。プリントに記入する児童は班で出たたくさんの意見の一つずつまとめており、練習の成果が出ていると感じた。よりよい世話、これからも続けたい世話についてそれぞれのグループが発表し全体で共有を行った。最後まで責任をもって生き物を大切に世話をしていきたいという気持ちを高めることができた。



【調べ学習の様子①】

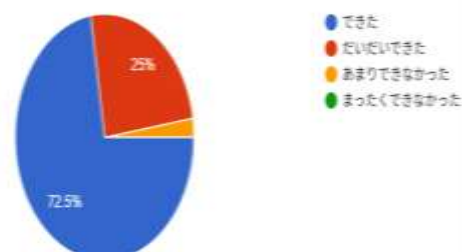


【調べ学習の様子②】

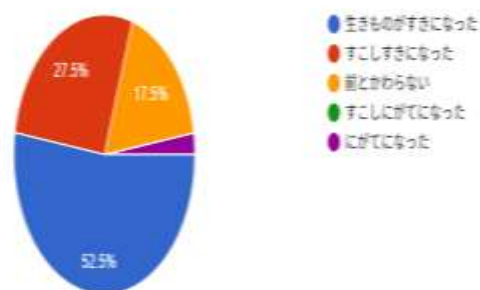
6 成果と課題

(1) 成果

今回の単元のまとめとして児童にアンケートを行った。その結果、「できた」が 72.5%、「だいたいできた」が 25.0%であり、合わせて 97.5%の児童が、自分の担当した生き物の世話を責任をもって行うことができたと回答した。このことから、多くの児童が主体的に活動へ取り組み、生き物の世話に責任感をもって継続的に活動できたことが分かる。また、お世話を通して生き物に対する気持ちの変化について尋ねたところ、「生きものが好きになった」が 52.5%、「少し好きになった」が 27.5%で合わせて 80%の児童が肯定的な変化を示した。毎日の世話や観察を継続したことで、生き物への愛着や親しみが深まり、生命を大切にしようとする意識の育成にもつながったと考えられる。さらに、今回の研究を通して ICT 機器に関心をもつ児童も多く見られた。ICT 機器を活用すること

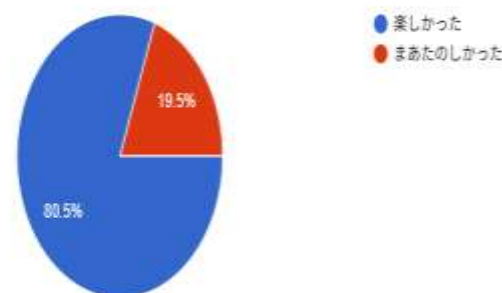


【責任をもってお世話ができたか】



【前よりも生き物が好きになったか】

で、自分の気付きや考えを整理したり友達のと比較したりすることが容易になり、多様な視点から生き物の様子を捉える姿が見られた。また、自分の考えを見直したり、新たな気付きを得たりする場面も増え、主体的に学習へ取り組む姿勢につながったと考える。



(2) 課題

【生き物のお世話した気持ち】

今回の学習ではホームページを活用したが、未習漢字が多く含まれており、ふりがな機能を使用しても正確に表示されない場合があった。そのため、児童が内容を十分に理解できず、調べ学習に時間を要する場面も見られた。児童が主体的に情報を収集・活用するためには、発達段階や既習事項を踏まえ、児童の実態に応じたホームページや教材を選定する必要がある。また、必要に応じて教師が資料を精選したり、漢字や言葉の理解を補う支援を行ったりすることも重要であると考え。さらに、低学年のうちからタイピングに慣れていれば、高学年での学習に生きるため、日常的にタイピング練習を取り入れ、基本的な ICT 活用技能を育成していきたい。主体的な学びを促すためにグループ活動を取り入れたが、発言する児童に偏りが見られる場面もあった。そのため、互いの考えを伝え合いながら協働的に学ぶ経験を日頃から積み重ね、全ての児童が安心して意見を表現できる学習環境を整えていく必要がある。今回の実践で得られた成果と課題を今後の授業改善に生かし、児童一人一人の学びがさらに深まる授業づくりを目指していきたい。また、ICT 機器を効果的に活用するためには、機器の操作方法を身に付けるだけでなく、目的に応じて必要な情報を取捨選択し、適切に活用する力を育成することも重要である。今回の実践では、操作に時間を要する児童も見られたため、学習内容だけでなく ICT 機器の基本的な操作に慣れる機会を継続的に設ける必要があると感じた。さらに、グループ活動では、役割分担を明確にしたり、一人一人が意見を述べる機会を設定したりすることで、より多くの児童が主体的に学習へ参加できると考えられる。このような学習経験を積み重ねることで、自ら課題を見だし、友達と協力しながら解決する力の育成につながることが期待される。また、児童一人一人の実態や学習状況には個人差があるため、学習の進度や理解度に応じた支援の工夫も求められる。ICT 機器の活用方法や話し合い活動の進め方について、必要に応じて教師が助言や支援を行うことで、児童が安心して学習に取り組める環境を整えることができると考える。今後も授業実践を重ねながら、より効果的な指導方法について検討を続けていきたい。